

## これからの大学職員に求められる能力を考える

**概要** 京都府内の大学入学人数は、2017年から2040年の間に26.2%減ると推計されています。進学者の様子も大きく変化することでしょう。大学も、そこで働く職員一人ひとりも、自らのあり方を変えていかねばなりません。

職員の高度化、専門化が必要と言われてはいますが、それは具体的にどのようなものなのか。自分のキャリアをどう捉え、構築していくと良いのか。大学を取り巻く状況を踏まえながら、皆で考えたいと思います。

**[講師]** 倉部 史記 氏 (追手門学院大学 客員教授、情報経営イノベーション専門職大学 客員教授)

**経歴** 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修士課程修了。工学院大学職員、早稲田塾総合研究所主任研究員などを経て独立。全国の大学・高校と連携し、進路選択や学生募集、高大接続に関する企画・情報発信を行う。

三重県立看護大学 高大接続事業 外部評価委員。公務実績として文部科学省「大学教育再生加速プログラム(入試改革・高大接続)」ペーパーフェリー、文部科学省「教育と研究の充実」に資する大学運営業務の効率化と教職協働の実態調査」有識者委員、三重県「県立大学の設置の是非を検討するための有識者会議」有識者委員など。著書に『大学職員のリアル』(中公新書ラクレ)、『ミスマッチをなくす進路指導』(ぎょうせい)など。



### 分科会 1



## 自分だけの体験的職員論 ~志を持ち、挑戦を続け、良きキャリアを積むために~

**概要** 業務増大による疲弊、なかなか進まない改革、上司、教員との関係…いろいろな悩みが聞こえてきますが、高等教育こそが日本を変える起点ですし、これからの大学を創るのは職員です。志を持ち続け、変化を生み、成果を出して、自らに誇れる職員人生を送るにはどうしたらいいか。私自身の個人的体験と教訓をお話して一緒に考えたいと思います。

**[報告者]** 小野 宏 氏 (学校法人関西学院 常任理事、計画推進・評価部長)

**経歴** 1961年生まれ。1985年関西学院大学理学部卒。朝日新聞社に8年間記者として勤務した後、1993年から関西学院専任職員。広報室、企画室、評価情報分析室、グローバル化推進室、総合企画部を経て2024年度から現職。2019年度から常任理事。アメリカンフットボール部のコーチを20年間務め、2013年度からディレクター。

### 分科会 2



## 各種調査の分析結果から考える、大学職員の「高度化」

**概要** 多くの人が「複雑化する大学経営を担うためには、大学職員の『高度化』が必要だ」という言説を幾度となく目にしたことがあるでしょう。しかし、その「高度化」とは、具体的にはどのようなことを意味しているのでしょうか?この分科会では、講演者がこれまでに行ってきたさまざまな調査の分析結果を踏まえつつ、大学職員の「高度化」について考えていきます。

**[報告者]** 木村 弘志 氏 (国立大学法人一橋大学 ソーシャル・データサイエンス学部・研究科事務室 総務係長)

**経歴** 1984年生まれ。京都大学理学部卒業後、国立大学法人一橋大学に入職し、2023年4月より現職。大学職員としての勤務と並行し、桜美林大学大学院大学アドミニストレーション研究科修士課程、東京大学大学院教育学研究科大学経営・政策コース博士課程を修了。博士(教育学)。主な研究成果に、『大学職員人事異動制度の実証的研究—職務遂行高度化への効果検証(東信堂、2023年)』『大学職員は、どのように改善業務を“始めている”のか—改善業務経験にかかるインタビュー調査から(高等教育研究、2023年)』など。

### 会場アクセス

京都市営地下鉄烏丸線、近鉄京都線、JR各線「京都駅」下車。徒歩5分。



公益財団法人 大学コンソーシアム京都  
The Consortium of Universities in Kyoto

教育開発事業部 SDフォーラム事務局  
〒600-8216京都市下京区西洞院通塩小路下る キャンパスプラザ京都内  
TEL: (075)353-9163  
E-mail: sd@consortium.or.jp  
窓口受付時間: 9:00 ~ 17:00(日、月を除く)

